

■■■■■■■■ 報道部 ■■■■ 様

前略

突然の手紙で失礼します。

■月■日放送の「■■川」水難事故の報道映像をWEB上で拝見しました。悲しい事故ではありましたが、TV報道として優れた内容であったと思います。画面が分かり易く必要事項が洩れなく撮影され言及されているだけでなく、事故を客観的に考察した一般論としての「安倍川」の状況に関する映像や報道も適切であったと思います。これは、■■アナウンサー様だけでなくカメラマンや編集やその他の皆様などの総合的な力によるものであり、敬服しています。

申し遅れましたが、私は、静岡市在住の杉村和高と言います。河川の上流と中流の土砂流下と堆積について長年観察と研究を続けて来たアマチュア研究者で、これまでの研究成果を「河川上流中流の土砂流下と堆積の規則性を考える」としてWEB上で公開しています。

<https://keiryuu.sakura.ne.jp/index.html>

その観察と考察の結果、私は、現在、各地の上流中流で行われているほとんどの工事について懐疑的な思いを抱いています。率直に言えば、それらのほとんどは間違えた工事方法であると考えています。今回の場合で言えば、「■■川」の段差に数多く設置されたコンクリートブロックは本来必要が無かったものであり、その場所よりも上流側の河川工事が間違いであったために、不可避免的に設置せざるを得なかったと考えています。この考え方を基に、静岡河川事務所様にも新たな手紙をお送りしています。

さて、■■■■■■様が、今回の水難事故を、単なる事故ではなくより深い背景があった事故として報道をされていた様子からは、皆様が、現在の河川の状況に何らかの疑念を抱いていたからではないでしょうか。ですから、あのような報道になったのではないのでしょうか。そして、その疑念は間違えではありません。

是非とも、上述したWEB上の記載をお読み頂きたいと思います。WEB上では、今まで誰も唱える事の無かった上流と中流の土砂流下と堆積について詳しく説明しています。ただ、それらの考えは、昨日今日、急に思いついたものではなく、長い年月の間に確立して来た考えであるため、記述内容は少ない分量ではありません。そこでは上流中流の様々な状況を多くの写真と共

に詳細に説明しています。詳細で分量が多いのは、それらが今までには無い新たな考え方であるため、より分かり易く記述する必要があったからです。

もしかすると、■■様始め皆様は、それらは自らの専門分野では無いと思われるかも知れません。でも、尻込みする必要はありません。その論述は、報道された画面と同様に、実際の河川状況を新たな側面からそのまま解説しているのに過ぎません。つまり、現実の河川を観察すれば誰にでも理解できる事柄なのです。

私は、随分以前から、新たな考え方に賛同を得るため、或いは工事方法を改めて頂く為に、それぞれの専門家の皆さんへ手紙をお送りしています。しかしながら、不可解な事にそれらに対するご返事はほとんど頂けないのが普通です。その事について、多少の理由は理解しているつもりです。

私は、研究者であると自らを説明していますが、何の肩書も持ち合わせていません。何の組織にも大学にも属することなく、全くの個人で活動しているのに過ぎません。公務員の皆様は、何らかの権威がある人々の意見を尊重するのが普通です。全くの個人の考えを取り入れるのは全くの冒険です。ですからそれら民間の意見や考えは無視するのが、常識になっているようです。また、これらの事情はお役所の皆様だけでなく大学などの学者の皆様でも共通しているようです。

そこで、■■様及び報道に関係する皆様に提案をしたいのです。何の肩書も無い一介の民間人に代わって、お役所や専門家の皆様に質問や取材をして頂けないでしょうか。質問内容は、河川に関心を持つ人ならば誰でも容易に理解できる事柄で良いと思います。そして、それ等は現状の本質に関わる事柄であり、役所の皆さんや専門家の皆様には私から既に質問をしている事柄でもあるはずです。

私では無く、皆様のような報道関係者からの質問や取材であるなら、役所の皆様や専門家の皆さんも無視する事が出来ないでしょう。もし、無視すればそのこと自体が報道の対象になる事は明らかです。もちろん、私の質問と同じ内容を繰り返す事を望んでいるではありません。■■様や皆様独自の質問や取材であるべきです。お役所や専門家の皆様からの情報を垂れ流しするだけが報道関係者の仕事ではない事を明らかにして頂きたいのです。それら既に質問をお送りしている手紙の記載は以下の通りです。

「静岡河川事務所への手紙（公開質問書）」

<https://keiryuu.sakura.ne.jp/Situmon/situmon01.html>

